

思いをつなぐ いのちをつなぐ

t s u n a g u

つなぐ



3.11 を忘れない
今、わたしたちにできること

Vol. 11

2016年1月19日発行

つなげよう脱原発の輪

上越の会 会報

発行責任者：植木史将

2015 なくそテ原発 柏崎大集会

2015年10月11日(日)、暴風雨の中、原発の見える海岸(柏崎市海浜公園 夕陽のドーム)にて、「柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉」を求めて17団体1300人が集結。上越地域からは200人が参加しました。



当会は署名コーナー担当。
泉田知事宛 100筆(うち柏崎刈羽の方々から23筆)、東電宛 95筆いただきました。



当会代表植木さんが、
実行委員長挨拶。
「福島に立ち返ろう」



暴風雨でデモが中止になっても
当会はその場で元気にコール！
「ゲンパツいらな〜い！！」



アイドルグループ「制服向上委員会」13歳から17歳が元気に明るく「ダッダッダッダ脱原発！」と歌って踊っていただきました。

最後は1300人全員による「なくそテ原発」のプラカード上げ。



その他、福島原発告訴団・武藤類子さん講演(次ページ詳細)、リレートーク(柏崎の主婦、福島からの避難者、市民エネルギー「おらって新潟」、JA佐渡)、ギター弾き語り、風船上げなど盛りだくさんでした。



《福島での東電、国、大手企業》

～東電と国の隠蔽と無責任体質は、事故の前も事故の後も変わっていない～

- ・東電は、大きな津波が来ることは予想外ではなく**事前に想定していた**。対策も検討されていたが、そうすると原発を止めなくてはならず、損なので、結局何もしないことを選び、この甚大な被害を及ぼす事故に至った。
- ・高濃度汚染水からの貯蔵タンクの漏れを、東電も**規制庁も**知りながら公表せず、指導もしなかった。
- ・東電は、地下水の汚染対策を東電は検討しておきながら「1000億円もかかるなら」と見送っていた。
- ・汚染水対策の凍土壁、除染、一基数百億円の放射性廃棄物焼却炉は、**原発建設で利益を上げてきたゼネコン、大手企業が受注し、**原発の前も後も利権構造は変わらず。

《福島の子供たちの今》

～子どもたちが帰還政策に利用されている～

- ・帰還困難区域を開通した国道6号線や高速道路では、車中でも毎時4～7マイクロシーベルト(上越の約100倍)。そこを**子供たちが通ってはいけないという決まりはない**。むしろ、「つながる想い、つながる笑顔」という標語が、車の窓から顔を出す子供たちの笑顔の写真とともに、ポスターとなって県内に貼られている。
- ・柏崎大集会の前日、その国道6号線の道路清掃を周辺住民や**中学・高校生に呼びかけて行われた**。沢山の市民が、せめて子どもに呼びかけるのはやめてくれと訴えたが聞き入れられず。
- ・「**放射能教育**」という名のもとに、放射能への注意は必要だが、自然界にもあるものだし、飛行機に乗っても被曝をする、放射線は医学や科学に寄与している、などといい、危険性から目をそらさせようとしている。
- ・環境省が作成した**放射線教育漫画**は、図書館や郵便局やコンビニにも置かれていて、9の真実に1の嘘を潜ませる形で放射能安全神話が作られ、被曝への警戒心や健康不安への言葉を封じ込めている。
- ・放射線教育を行うという「環境創造センター」なるものが建設されていて、**福島県の小学5年生は、全員**そこを訪れることになっている。愛称が募集され、小学生により「コミュタン福島」と名付けられた。

- ・小児の甲状腺検査で、**がんまたはがんの疑いが**、1巡目(30万人)111人、2巡目(17万人)新たに25人。にもかかわらず、**国は原発事故と小児甲状腺がんの因果関係を認めず**、対策も講じない。子供の健康に関しては予防原則に立ち、治療を伴う詳細な健康調査と被曝低減策が必要。

《川内はじめ全国の原発が再稼働へ》

～福島がこんな状況の中、川内原発は再稼働し、次は伊方原発の再稼働が目論まれている～

- ・要援護者の**避難計画もないままに**、免振重要棟やベントフィルターやコアキャッチャーもないままに、火山の影響への対策もなしに再稼働。
- ・福島の前からは、原発事故が起きても**賠償が大きく制限される**という制度が、経産省の小さな委員会でひそかに決められようとしている。

《原発をなくすためのキーワード》

①諦めない

諦めないことが事故の**被害者としての責任**。最初は裁判所にも相手にされてこなかったが、事故の責任を追及し続け市民により、起訴が決まった。

②つながる

立場や考えの違いを超えて、理解し合い、**緩やかにつながることが今大切**。訴訟などしてる19団体が連絡会を結成(通称「ひだんれん」)。

③一人一人が考える

どうしたら原発をなくし、あらゆる命が尊重され、一人一人が大切にされる世界をつくっていけるのか。それは、「自分の頭で考え、自分にできる行動を**一人一人がしていく**」こと。

《締め括りとして》

私たちひとりひとは、**愛に満ちた自由な者たち**です。そのことを、繰り返し思い出しましょう。自分を大好きでいましょう。共に歩むものを大切にしましょう。誰も私たちの想いを止めることはできません。きょうの集会在**新しいつながりの一歩**となりますように。

【福島原発告訴団】

武藤類子さんを団長として、2012年に結成。東電役員や旧原子力保安院など政府関係者、御用学者と呼ばれた3人を含む33人と会社としての東京電力を告訴。国の機関である検察は、2度に渡って不起訴にした。しかし、一般市民がくじで選ばれる検察審査会のメンバーは、2度とも「起訴するべき」という議決を出し、今年7月31日、強制起訴が決定。これからの裁判は、裁判所が指定した5人の弁護士たちが、検察官役となって行わる。5人とも、経験豊かな素晴らしい弁護士。来年の3月頃には起訴状が出され裁判が始まる。

私たちが何か悪いことをしましたか？

高橋 真由美

(2011年 原発事故後に福島県郡山市から新潟へ避難)

2011年3月11日。この日から私たち家族の生活は一変しました。

原発から約58Km離れた我が家は、国が安全と言う区域です。

東日本大震災の翌日、水素爆発が起き、その2日後に3号機が爆発しました。

テレビの映像から観る福島第一原発の爆発は、大きな「きのこ雲」が上がり、まるで映画のワンシーンを観るようなものでした。私は直感的に「死」の恐怖を感じ、「危ない」「逃げなければならない」と思いました。

放射能のことを調べれば調べるほど「危険」だという情報を目にし、学校や幼稚園、教育委員会、保健所にも問い合わせ、私が知りえた情報を伝えましたが、「国が大丈夫と言っているので問題ありません。」「お母さん、正しい知識をつけてください」と言われるだけ。

ここで子ども達を安全に育てることはできないと判断し、夫婦で「今できる精一杯のことをしよう」と話し合いました。主人は福島に残り働き、当時4歳と7歳の子を抱えた私は新潟での母子避難を選択したのです。

3年間、ほぼ毎週末、主人は福島から新潟に通い続けました。

母子避難も、はじめは「そのうち慣れるのではないか」と思っていたのですが、時間が経つに連れて辛くなり、主人が福島に帰るとき子ども達は号泣し、毎回「パパ死なないで～」と泣きじゃくる姿を見て、これ以上家族が離れて暮らすことはできないと痛感しました。毎週末、全く嫌な顔せず通い続けた主人も、見ていてかわいそうなくらい疲れ果てていました。……もう限界でした。

事故から3年経った2014年3月に、家族で新潟に暮らすことを決め、主人は新潟で再就職しました。家族と一緒に暮らせるようになりましたが、収入は以前の半分。経済的不安は消えません。そして毎年、家族で甲状腺検査を受けるたびに、悔しさと悲しみと不安がつきまといます。

これから先の生活の不安。子ども達の健康被害。ずっとずーと……生抱えていかなければならない問題がたくさんあります。自主避難者の置かれている環境や想いは様々で、避難者の数だけ苦悩がある。今でもたくさんの不安の中、福島で暮らす人、自主避難しても苦しんでいる人がたくさんいます。

私たちが何か悪いことをしたでしょうか？

たまたま福島に生まれ、福島で育ち…原子力発電所がある福島に住んでいただけ。

福島の美しい自然、おいしい食べ物、空気、青い空。大好きな故郷が汚染されてしまった。

私たちは今までの生活を全て失いました。これからの人生設計も全て崩れました。

親友との別れ、親戚とも簡単に会えなくなりました。失ったものが大きすぎて、取り戻すことができない現実。

新潟には世界最大級の柏崎刈羽原子力発電所があります。

もし事故が起きたら被害は福島よりも大きいものになると思います。

私たちのような想いは絶対にしてほしくない！

未来の子ども達のために、今、私たち大人が立ち上がらなければならないのではないのでしょうか。

どうか…柏崎刈羽原発の稼働停止の声を上げてください。

内部被曝から守るために（第6回）

食生活で意識すること

福島第一原発事故で大気中に放出された大量の放射性物質は農林水産業を直撃し、環境に及ぼす影響は計り知れずさらに広がることでしょう。特に成長期の子もたちや妊産婦への影響は大きく、内部被曝から身体を守るには疑わしい食材は体内に入れないことが肝心です。

野菜はていねいに洗い、魚のウロコや内臓を避けること、常に便通を整え早く排泄することも大切です。

放射性物質に結合して排泄する働きのあるものは、アルギン酸ナトリウム（海藻類）やタンニン化合物（お茶・柿渋）、フラボノイド（玉ねぎ・レモン・ブロッコリー）、ペクチン（りんご）、天然醸造の味噌などがあります。

また免疫力を高め細胞を回復させる酵素や、細胞をがん化させないファイトケミカル（野菜の色素など）を意識して摂取し、さらに冷えやストレスは免疫力の大敵ですから心して寒い冬を乗りきりましょう。（鈴木勢子）



私の思い



ふるさとに住めなくなることは耐えられない

田中淳哉（上越中央法律事務所）

私は、福島第一原発事故が起こるまでは、「原発には潜在的な危険性があるものの、それが現実化することはほとんどあり得ない」と思っていました。2011年3月11日の事故で、その認識は根底から覆されました。そして柏崎刈羽原発で同じような事故が起こって、生まれ育った上越が、新潟が、人の住めない土地になるのは耐えられないと思いました。

そこで、昨年1月から原発差止訴訟の弁護団に加わり活動をしています。裁判で勝つためにも世論の広がりや決定的に重要です。注目・関心・支援の輪をさらに広げていきたいと思えます。

《 活動報告 》

◆9.27 放射能べんきょうかいIN牧（カフェ付）

【日時】9月27日（日）14：00～16：00

【会場】牧コミュニティプラザ 3階 会議室

【内容】DVD鑑賞『小児甲状腺ガンの多発と原発再稼働阻止』、お茶を飲みながら交流会

◎「原発賛成の知人は、『経済のため』と言う」との発言あり。私たちの活動の原点は、福島。そして、放射能、被曝、命。しかも、原発は実は高コストで不経済。

◆11.1 出勉前ピラIN下門前（会場周辺で、事前に出張勉強会の紹介ピラを配る。）

【日時】11月1日（日）10：00～12：00

【配布場所】上越教育プラザ（下門前）周辺

◎小さい子供のたくさんいそうな新興住宅街で、11/29の放射能勉強会のチラシ300枚を配布。

◆11.29 放射能べんきょうかいIN下門前

【日時】11月29日（日）14：00～16：00

【会場】上越教育プラザ 小会議室

【内容】DVD上映「放射線内部被曝から子どもを守るために」 解説：鈴木勢子さん

◎17名が参加。汚染の可能性の高い食品を摂らないことはもちろん、放射性物質を排泄し、免疫力を高める食事と生活が大切とお話など。「テレビなどでは報じられないので、自ら動いて解決しないと」などのご意見も出ました。

◆12.23 子どもたちの未来と原発再稼働を考える集い 報告「オンカロ（フィンランド放射性廃棄物処理場）&原発廃炉のドイツ」

【日時】12月23日（水、祝）13：30～15：30

【会場】上越市市民プラザ 第1会議室

【講師】立石由美さん（新潟市在住）

【主催】子どもたちの未来と原発再稼働を考える会

【後援】つなげよう脱原発の輪 上越の会

◎オンカロのあるフィンランドは日本とはずいぶん違う。地盤が固いこと。地震がほとんどないこと。そして、それよりも、汚職がないこと。政府が信用されていること。

つなげよう脱原発の輪 上越の会

代表：植木史将（090-4962-9633）

公式ホームページ 続々更新中

全国の放射線量サイト、他団体HPにもリンク！

tunadatu.jimdo.com

つな脱

検索

カンパ募集中です

当会は会の趣旨にご賛同いただける皆様からのカンパで運営されています。ご協力よろしくお願ひします。

ゆうちょ銀行から…11260-13169471

名義：つなげよう脱原発の輪 上越の会

ゆうちょ銀行以外から…ゆうちょ銀行・仔コト（一ニハ）・普通預金・1316947

名義：つなげよう脱原発の輪 上越の会

◆◇編集後記◇◇

▼ミュージシャンでもある「原発労働者」の著者・寺尾紗穂さんのライブに行ってきた。「私は知らない」って曲に心が震えた。私には、人の心に訴える歌を作る事も歌う事も出来ない。せめて この「つなぐ」があなたの心に届きますように……（Y. Y）